



# JSPS Bonn Newsletter 2017年4月～6月 (ぼんぼん時計 No. 56)



(Ulm, ウルム市街地)

## 目次

### ピックアップニュース

p2

- ① エクセレンス戦略：エクセレンス・クラスターとして195の申請が提出される
- ② ドイツ研究振興協会（DFG）、ハレにて年次総会を開催（2017年7月2～5日）
- ③ 教育と研究における未来への投資

### その他のニュース

p3

### イベント活動報告

p14

- ① フンボルト財団主催ネットワークミーティングに参加

- ② サマープログラムオリエンテーションを開催

- ③ トリアー大学においてプロモーション活動を実施

- ④ 第22回日独学術シンポジウム「変化する世界における女性のヘルスケアの新たな挑戦」をウルム大学で開催

- ⑤ 海外特別研究員オリエンテーションおよびキャリアフォーラムを開催

### センター長コラム

p18

### ドイツの大学紹介：トリアー大学

p19



## ピックアップニュース

### エクセレンス戦略：エクセレンス・クラスターとして 195 の申請が提出される

「連邦と諸州のエクセレンス戦略」では、新エクセレンス・クラスターの一次選考が始まる。第一次ドラフト提出期限終了後に、ドイツの大学においてどれくらいのプロジェクトがエクセレンス・クラスター助成プロセスで最終選考に臨めるかが確定する。

2017年4月3日までに195のエクセレンス・クラスターの第一次ドラフトがドイツ研究振興協会(DFG)に提出された。DFGは、連邦と諸州間で締結された行政合意に沿ってエクセレンス・クラスターの助成プロセスでの審査を実施する。2016年12月に大学が意向表明をした時よりも3件のドラフトが増えており、16の全州から合計63大学が1件あるいは複数のドラフトで一次選考に参加している。

195件のドラフトのうち47件は複数の大学連合の形で提出され、そのうち6件のドラフトは3大学共同でなされている。ドラフトの三分の二は大学以外のパートナーの参加を予定している。コンセプトの大多数は学際的なものとなっていて、申請のテーマを分類すると、27%が自然科学分野、25%が人文社会科学分野、24%が工学分野、24%が生命科学分野である。

2019年1月1日に助成が開始される予定である。行政合意に見積もられている45から50のエクセレンス・クラスターのために、年間3億8500万ユーロの支援が予定されている。エクセレンス・クラスターに関する判定は、同時にドイツ学術審議会が行うエクセレンス大学の第二助成プロセス審査における重要な要件の一つになる。つまり、エクセレンス・クラスターの数が十分な大学が2018年12月にエリート大学の申請書を提出できるのである。エリート大学については、審査の後2019年夏に判定が下される。

結果については、エクセレンス大学助成プロセスを主導するドイツ学術審議会とDFGが、審査終了後に議決し、各大学に通知する。

DFG: [http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2017/pressemitteilung\\_nr\\_10/](http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2017/pressemitteilung_nr_10/)

(05 Apr. 2017)

### ドイツ研究振興協会 (DFG)、ハレにて会員総会を開催 (2017年7月2~5日)

2017年7月2日から5日にかけてドイツ研究振興協会(DFG)の会員総会がハレで開催される。総会は、ドイツ国立学術アカデミー・レオポルディーナとマルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク(以下、マルティン・ルター大学)による、ハレ大学とヴィッテンベルク大学の統合200周年を記念して、ハレにて開催される。会期中は、ドイツ最大の研究助成機関であり、ドイツ中央学術振興自治組織であるDFGの理事会から評議会、主要委員会、そして会員総会に至るすべての中央審議会が開かれる。

会員総会では、7月5日にマルティン・ルター大学の「ライオン校舎」にて、DFGのシュトロシュナイダー理事長と、ツヴォニク事務局長が2016年7月にヨハネス・ゲーテンベルク大学マンイツで開かれた昨年度の会員総会以降のDFGの振興活動を振り返る。その他の議題として、連邦政府と州政府によるエクセレンス戦略の下で近年進められているDFGによる審査が取り上げられ、学術研究における男女の機会均等のさらなる改善のためにDFGが講じている特別措置が紹介された。

また、DFGの96番目の会員となるかもしれないワイマール・バウハウス大学の入会希望に関して、会員規定に基づき、決定が下される。

会員総会ではさらに、DFGの振興活動のために最も重要なデータと、採択された振興プロジェクトに関する詳細を掲載した「年次報告書2016」が発表される予定である。その他にも、DFGにおいて最も重要な学術審議会である、理事会と評議会の選挙が予定されている。理事会では3名の理事がさらに4年間の在職を希望している。その3名は、ベッカー副理事長(ギーセン大学・教授)、ホッフブルック副理事長(カールスルーエ工科大学・教授)、シェーン副理事長





## ピックアップニュース

(マックス・プランク租税法・財政学研究所・教授)である。評議会では、36の学術研究ポストのうち13のポストの選挙が行われる予定である。

DFG : [http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2017/pressemitteilung\\_nr\\_18/index.html](http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2017/pressemitteilung_nr_18/index.html)

(13 Jun. 2017)

## 教育と研究における未来への投資

連邦内閣は6月28日、2018年第1次連邦予算案と2021年までの財政計画を閣議決定した。連邦教育研究省(BMBF)の予算は約176億ユーロとなり記録的な水準を維持し続けている。今回の政府の任期だけでもBMBFの予算は約40億ユーロ増え、前期と比較して27%増となった。教育と研究における未来への投資は2005年から実に2倍以上に増えている。これは、現連邦政府の首尾一貫した教育研究政策の結果である。来期からの予算案がどのような形になるかは分からないにしても、2018年の予算案はこの政策を継続するものである。

BMBFの大幅な予算増加を受けて以下のことが達成された：

- ・2015年に初めて、ドイツにおいて対GDP比の3%を研究開発に投資したこと。その3%のうち、BMBFの支出額は90億ユーロに上り、これは連邦政府による研究開発への支出の大半を占める。
- ・ドイツにおける学術及び研究機関の国際競争力を、持続的に強化していくこと。そのための予算として、1年ごとに3%ずつ予算の増加を保証できるのは、連邦政府のみである。
- ・大学と学生のために2017年には約77億ユーロを準備したこと。これは、第17期連邦議会(2009年～2012年)の終わりに決定した金額より34%多い。
- ・2018年には、研究と技術革新のためのハイテク戦略プログラムのため、2013年に比して約25%多い資金を調達したこと。BMBFによるハイテク戦略のための支援として、2018年には合計で25億5,000万ユーロが供されている。重点は、デジタル化、マイクロ・エレクトロニクス、エネルギー研究および健康に関する研究である。
- ・ドイツ全体で技術革新が構造的に弱い地域を新たに支援するべく、「WIR 地域での技術革新による変化」という支援プログラムが新たに開始されること。この支援策は、拡大される東ドイツ諸州における技術革新支援を2018年度には1億6,000万ユーロ行い、今後も発展していくものである。
- ・連邦政府が特にその支援に重きを置いている職業教育のための資金は、第18期連邦議会(2013年～2017年)の期間のみで40%以上増加していること。2018年度には現在のところ、約5億9,000万ユーロが予定されている。職業教育では、向上訓練支援法による支援金の値上げと並んで特に職業指導プログラムが7,700万ユーロと高い水準で継続されている。さらに2,000万ユーロは、特別に難民向け職業指導に充てられる。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/zukunftsinvestitionen-in-bildung-und-forschung-4408.html>

(28 Jun. 2017)

## その他のニュース

### 連邦政府が職業教育のデュアルシステムにおける国際的責務を強化

多くの国々が、若年層での持続的な高い失業率と職人不足に悩まされている。従って職業教育制度の改善はこれらの国々では政策の焦点となっている。ドイツの職業

教育制度は世界的に成功例として評価されており、ドイツとの協力を望む声が高まるばかりである。

ドイツ連邦で国際的な職業教育の主要所管省4省の活動をうまく合わせることで、ドイツ連邦政府の戦略である。成果が上がっていることは証明されており、連邦政



## その他のニュース

府の長年にわたる貢献はこれからもさらに拡大される予定である。連邦教育省、外務省、経済省、経済協力開発省は本日ベルリンで開催された成果会議でこの結果を確認した。

関連する省すべてがこれまでの数年にわたり、職業教育協力の貢献度を高めてきている。

連邦教育研究省は、相手国にとって見本となり、また戦略的な計画となる職業訓練コースを支援するため、先進国及び新興国との更なる戦略的協力を増やしてきている。

連邦経済・エネルギー省は、在外ドイツ商工会議所を支援し、ドイツを手本とするデュアル職業教育のプラットフォームを作っている。

連邦外務省は、多くの在外公館で様々な活動の調整、経験についての意見交換、相手国に対する統一した姿勢を確立するため、円卓会議を実施している。

経済協力開発省は、途上国や新興国の役に立つ職業教育制度の構築を支援している。

多くの相手国では企業や社会的パートナー（労使）が伝統的に若者の資格取得に関わらないため、企業や労働組合を職業教育に取り込んでいくことが未だ十分に行われていない。したがって、ドイツ連邦政府が助言を行う際に、職業教育の形に企業や社会的パートナー（労使）を取り込んでいくことが重要である。

加えて、多くの相手国では職業教育のイメージはよいものではなく、しばしば高等教育と競合する。政治家が高等教育と職業教育のデュアルシステムをよいモデルとして認識していても、青少年、保護者、雇用者のためにはまだまだ啓発活動がなされねばならない。

ドイツ連邦政府は、国際的な活動によって、教育制度を拡大、改善し、若者の就業能力を高めるために相手国を支援する。このようにして連邦政府は難民や移民の要因を減らすことに寄与している。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/bundesregierung-staerkt-internationales-engagement-in-der-dualen-ausbildung-3984.html>

(22 Mar. 2017)

### HRK の専門知識の国際化：新規プロジェクトはドイツの大学の国際化を促進

ドイツ大学長会議（HRK）によって始められた新たなプロジェクト「HRK-EXPERTISE Internationalisierung (HRK の国際化に対する専門意見)」はドイツの大学における制度的な国際化を支援する。このプロジェクトは

2020 年までを予定しており、連邦教育研究省（BMBF）によって経費支援がされる。

「国際性と柔軟な姿勢は将来的にドイツの研究と高等教育制度を発展させ、国際的な競争力を高めるためにとりわけ重要である。このプロジェクトは、大学における様々なグループをターゲットとした活動やリソースを発展させることを目標としており、多くのスタッフや学生たちが盛大に国際化を享受することができる。私は BMBF がこのプロジェクトを支援してくれたことを大変うれしく思う。」と HRK のヒップラー会長は言う。

この計画の支援内容は幅広い。様々なトピックスやプロセスに関係するワークショップの形式をとって、大学に対して選ばれた専門家からの特別な助言をしたり、また一般的な支援として国際化の良い具体例について収集し公表をする予定である。ネットワーキングのための会議や専門家のためのイベント、円卓会議など様々な活動がネットワークや協力関係の構築とともに知識や経験の交換の場として助けになるだろう。

「ドイツの大学における国際化は近年、大きな進化を遂げている。そして現在、さらなる段階へ進むべきかを考える時期にある。どのような時期かという機関ごとの個別の要求に対応するためにさらなる細分化した構築を進めること、そして個々の大学のさらなる国際化を進めていくのかを考える時期にあるのだ。これこそが今回の新規プロジェクトの出発点である。」とヒップラー会長は言う。教育プログラムに関する国際的な問題や異文化間の摩擦の解消、大学職員の国際化、海外の大学との協定の増加や国際的な知名度のアップ。ドイツの大学は現在これらの項目に対して集中的に取り組んでいる。

この新規プロジェクトは5月27日にベルリンで開かれる会議、「国際化とは誰のものか。幅広い基礎と質の高い経験に基づく国際化促進のために」で報告される予定である。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-expertise-internationalisation-new-project-supports-internationalisation-of-german-universities/>

(27 Mar. 2017)

### 連邦教育省がデジタルの才能促進を拡大

プログラミングが大好きな生徒のために、5月に新しいコンテストが開かれる。それは、新企画の「青少年プ



## その他のニュース

「プログラミングコンテスト」であり、連邦教育研究省（BMBF）が助成する。

上記コンテストは、アルゴリズム的思考、及び、プログラミングで自分の力を試したいと考えている全学年の生徒を対象としている。

このコンテストのサイトには、小さな子供や青少年のために、さまざまな情報学の学習講座が設けられており、通常はオンライン講座で、無料である。このオンライン講座には code.org のような情報学の基礎講座から「CS Circles」という名のプログラミングコースまである。

BMBF はさまざまな子供・青少年コンテストを助成している。「青少年研究コンテスト」、「ドイツ全国外国語コンテスト」、「青少年小説コンテスト」、「青少年作曲コンテスト」、または「青少年起業ビジネスプランコンテスト」などである。BMBF は上記の新しいコンテストも含めて数々のドイツ全国情報学コンテスト（BWINF）を助成しているが、毎年、1800 以上の学校から 30 万人以上の小さな子供と青少年らが参加する。BWINF の事業は多くの研究機関、ドイツ情報学協会、フラウンホーファー IUK 情報通信研究所、そして、マックス・プランク情報学研究所から支援を受けている。この新企画の「青少年プログラミングコンテスト」により、これまでの情報学のコンテストの穴が埋められたことになる。「情報学ビーバー」は、2016 年だけでも 29 万人以上の生徒が参加した企画であり、それは、10 年以上も前から情報学におけるデジタル思考の魅力を伝えているが、予備知識を必要としない。それに対して、「ドイツ全国情報学コンテスト」は、1980 年以降、情報学のさまざまな課題に対してプログラミングを駆使して取り組むため専門的な知識を必要とする。新企画の青少年プログラミングコンテストは、「情報学ビーバー」と、「ドイツ全国情報学コンテスト」の間に位置している。このコンテストは、小さな子供や青少年に、「情報学ビーバー」で示した情報学への関心をさらに追求し、そして、自分の才能を伸ばし、できれば後に「ドイツ全国情報学コンテスト」に意欲を持ってもらうよう促すことである。

この新しいコンテストのスタートは 2017 年 5 月 15 日である。「青少年情報学コンテスト」の第一次選抜では、オンラインプラットフォームを通してロボット操作をしたりバーチャルな亀の動作をプログラミングしたりというものになる予定である。

BMBF :

<https://www.bmbf.de/de/bundesbildungsministerium-baut-digitale-talentfoerderung-aus-4029.html>

(03 Apr. 2017)

### ドイツ学術機関連盟「科学のための行進」に対する支持を表明

ドイツ学術機関連盟は「科学のための行進」を歓迎し、支持を表明した。アメリカに始まり、ドイツの多くの都市だけでなく世界中の至るところで 4 月 22 日にこの行進は行われる予定である。この行進は科学の自由を力強く明確に支持するものであり、多くの国や社会、もちろん EU 圏内でも起きている科学の自由に対する抑圧に抗議するものである。

政策決定者による反民主主義、反科学の動きは科学の成果や価値、そしてそれに関わるすべての人々を脅かしている。この動きは社会が科学から得られる利益を制限し、開かれた社会制度や基本的な生き方と同様に、リベラルな立憲制度の基本原則をそれと同時に侵害している。

ドイツは国際的で多元的な学術システムを持ち、その結果として特に効果的な学術システムとなっている。研究の自由と教育の自由は憲法において明記され、幅広いレベルで社会的にも政治的にも支えられている。このような特別な状況にある以上、科学とその自由に対するありとあらゆる脅しに対してははっきりと反対の立場をとる義務が生じるのである。

フンボルト財団 (AvH)、ドイツ研究振興協会 (DFG)、ドイツ大学長会議 (HRK)、ライプニッツ学術連合、ドイツ国立学術アカデミーレオポルディーナ、ドイツ学術交流会 (DAAD)、ヘルムホルツ研究センター、マックスプランク協会の共同声明。

AvH : <https://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2017-06.html>

(06 Apr. 2017)

### 早期の著作権改革の必要性

ドイツ学術機関連盟は、著作権改革の現在の草案を強く歓迎し、迅速な議会での採決を支持する。現代の知識社会は、教育と研究のための現代に即した利用を可能とし、同時に著者たちへの相応な報酬を確保するという未





## その他のニュース

来志向の著作権を必要とする。学術領域における著作権に関する今までの法的な不安定さは、学術分野における自由な知識の交換を妨げ、結局は教育と研究拠点としてのドイツにとって負担となる。

連盟の見地から言えば、新しい規定は複雑なものではなく、法的に安定しており、利用者にわかりやすく整えられていることが求められる。改革草案はそれを保証する。著作権で保護された作品について、複数回の使用を含めてすべて込みの金額で著作者に対して報酬を支払い、その後許可を逐一取らずに使用するという方法を連盟は唯一の現実的な解決策であると考えている。学術関連の教科書についてもこの改革草案がカバーするなかに含まれていることは適切であり、歓迎される。出版業界の利益を損なわないようなバランスのとれた著作権法が求められる。

現在の草案には、学術分野の興味と著作権保持者の利益の両方を満足させる解決策が盛り込まれている。連盟は、今期の議会で議決されるように、改革案を近く議会へ提出する予定の連立政党を強力に支援する。

DFG :  
[http://www.dfg.de/download/pdf/dfg\\_im\\_profil/reden\\_stellungnahmen/2017/170407\\_stellungnahme\\_allianz\\_urheberrechtsreform.pdf](http://www.dfg.de/download/pdf/dfg_im_profil/reden_stellungnahmen/2017/170407_stellungnahme_allianz_urheberrechtsreform.pdf)

(07 Apr. 2017)

### ひとまとめにした革新

もし、それぞれ異なる強みや経験を持つ、大学、企業、研究機関もしくは他の機関が一つのテーマに関して協働したらどうなるだろうか。協働すればそこでイノベーションが起きる。ドイツではここ数年、上記のような形で提携するケースが非常に増えてきているのだが、それは、とりわけ連邦政府からの助成により促進されてきたものである。そのような背景のもと、4月末に、「ドイツ・クラスターウィーク」が開催される。連邦経済エネルギー省 (BMWi) 及び、連邦教育研究省 (BMBF) 主催のもと、4月20日から28日まで、ドイツのクラスター界がドイツ全土で催し物を行う。全体で、150以上のワークショップ、展示会、一般公開が行われ、専門会議やプレゼンテーションも行われる。

「it's OWL - ウェストファーレンリッペ東地区における知識技術化制度 (Intelligente Technische Systeme

OstWestfalenLippe) 」という先端クラスターにより2012年以降、170以上の中小企業がこの地方に移転し、34の企業が創設された。

174の企業、大学、研究機関はウエストファーレン・リッペ東地区のこのクラスターに組み込まれたのだが、それは協働することでメカトロニックからスマート技術システムへと大きく飛躍するためである。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/gebuendelte-innovationen-4090.html>

(19 Apr. 2017)

### 全世界における経済、法律、そして科学

世界98か国からの、ドイツ学術交流会 (DAAD) から奨学金助成を受けている450人以上の学生たちが、4月28日から30日にかけてバイロイト大学で経済と政治における世界的な繋がりについて討論する予定である。この会合は、DAADの副会長であるジョイブラト・ムケジェエ教授とバイロイト大学の副学長で、国際事情及び男女雇用機会均等担当のトーマス・シャイベル教授が主催する。多くの講演会、討論会が予定されているほか、個人レベルで話し合いをする時間も設けられている。講演会は、例えば、「国はどのように罰を与えればよいのか。政治に焦点を当てた新しい処罰方法について」などの、現行の政治討論にインパクトを与える。その際、講演者だけではなく、奨学生も自分たちの学術の観点から発表することもできる。

会合の間、奨学生たちは、DAADにて彼らの国を担当する職員に直接会い、その場で重要事項に関する質問をすることができる。DAADは年に5回、各地で奨学生たちを会合に招待するが、その趣旨はドイツに新しく来た奨学生を歓迎し、また、彼らが互いに知り合う機会を与えることである。奨学生は学士課程か博士課程に属しており、少なくとも一年間、ドイツの大学、もしくは研究機関に滞在することが決められている。DAADの職員は、奨学生がドイツに滞在している間、彼らの相談役として、日常生活に関する問題解決をサポートする。

バイロイト大学での会合は2017年4月28日の金曜日に始まり、4月30日の日曜日に終了する予定である。ジャーナリストたちは金曜日に開かれる公式の開会式に招待されており、会場場所はバイロイト大学のキャンパスの講堂である。講演会は全て4月29日土曜日に終了し、



## その他のニュース

その後、奨学生のための合同研修が開始される予定である。

DAAD :

<https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/53581-wirtschaft-recht-und-gesellschaft-in-der-globalisierten-welt/>

(03 May. 2017)

### 持続的な未来のために学識の声を強化

持続可能な目標を達成するためにドイツは何をしなければならないのか。学術はそのためにどのような貢献ができるのか。

ドイツは、国際連合による 2030 アジェンダを実行に移すことを自らに義務づけた。2030 アジェンダは全部で 17 の目標からなる持続可能な開発目標を掲げている。アジェンダで掲げられている目標は人類、環境、経済といった幅広いエリアからなる。それらは男女平等、教育、健康、平和、正義、貧困との戦い、気候及び絶滅寸前の種の保護、持続的な消費、環境にやさしいエネルギー供給から強い経済まであり、多岐にわたる。世界の国々は今、等しく上記の目標を実行に移す義務がある。首相主導のもと、ドイツの新たな持続性戦略は、国際連合の 2030 アジェンダに沿って作られ、今年度初頭に連邦内閣により閣議決定された。

連邦教育研究大臣は、今後さらに学術を持続性戦略の実現に組み込んでいく意向である。そのために、本日新たに 2030 持続可能目標に対する学術プラットフォームが発表された。そのプラットフォームは研究連盟、シンクタンク、そして意見交換のフォーラムとして詳細なアドバイスをすることになっている。上記のプラットフォームは学術分野と一般社会から選ばれた 26 人の代表者から成り立っており、首相のイニシアティブにより設立された。土地利用、栄養、持続的生産と消費、デジタル化における労働の未来、都市化といった一般社会が関心を持ち参加しやすい分野がまず初めに選ばれた。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/stimme-der-wissenschaft-fuer-eine-nachhaltige-zukunft-staerken-4146.html>

(09 May. 2017)

### 専門大学卒業生に対する博士号授与数の増加

専門大学卒業生への博士号授与数と総合大学との共同博士トレーニングによるものについての新たなデータが昨日、ビーレフェルトにおいて開催されていたドイツ大学長会議 (HRK) の定例会議にて発表された。HRK は 2012 年から 2014 年のアカデミックイヤーにかけてドイツの全大学を対象に調査を行った。

専門大学卒業生による博士号取得について見てみると、1990 年代以降その数は徐々に増加していることは間違いなく、少なくとも 2012 年から 2014 年のアカデミックイヤーにかけては 1245 人まで増えていることは明らかである。2009 年から 2011 年のアカデミックイヤーと比較すると、30%以上博士号取得者の数を伸ばしている。HRK は博士課程進学に関して差別的な対応をなくすルールについても調査を行った。すると約 90%の大学がそれぞれの大学規定の中で差別を禁止する規則を明記しているとの回答結果が出た。

2012 年から 2014 年にかけて共同博士トレーニングによる博士号取得者の数は 376 人であった。このトレーニングには専門大学で指導教授、査読者、もしくは試験官として働く教授たちも関わっている。HRK は今回初めてこれらの数値を詳細に記録した。「今回の調査は 2015 年に行われた博士課程の運営に関する HRK による勧告の一環である。」と HRK 会長は述べる。

今回の調査は博士号授与の権限を持つ、38 の芸術大学と音楽大学を含んだ 146 大学を対象に行われた。アンケートは大学の執行部や学部/学科に対してそれぞれ送られた。回答はほとんどすべての大学から提出され、872 ある学部/学科のうちの 710 から回答が提出された。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/nationwide-increase-in-doctoral-degrees-awarded-to-graduates-of-universities-of-applied-sciences-416/>

(10 May. 2017)

### DFG が新たに 15 の大学院を支援

ドイツ研究振興協会 (DFG) はドイツにおける若手研究者のさらなる支援拡大のため 15 のリサーチトレーニンググループ (RTG) の支援を開始する。このうちの 2 つはそれぞれオーストラリアと中国を相手国とするインターナショナルリサーチトレーニンググループ (IRTG) である。これは春にボンで開かれた助成委員会において

## その他のニュース

決定された。支援期間は4年半であり、その期間に約6600万ユーロもの資金が提供され、そのうちの22%はプロジェクトにかかる間接経費として認められている。新しく採択されたグループに加え、助成委員会により選ばれた5つのグループについてはさらに4年半の支援期間延長が認められている。

RTGは博士課程の研究者たちに、整った研究設備と質の高いプログラムでもって、高い学術レベルで博士論文を完成させる機会を提供する。DFGは現在のところ、213のRTGを支援しており、そのうち40はIRTGである。また今回採択された15のグループに対しても2017年9月に新たに支援を開始する予定である。

この新たな支援決定に加えて、助成委員会は、RTGプログラムの基本的な問題に取り組んだ。基本的な問題というのは、特にそれぞれのRTGの研究テーマの範囲を越える、分野横断的、総合的な能力を身につけるための手段についてである。事務局長のツヴォネク氏はエクセレンス・イニシアティブの一環として、例えば大学院に作られた、こうした研究テーマの範囲を超えた分野横断的・総合的な能力を身に着けるための組織について助成委員会に報告した。RTGプログラムでは、こうしたタイプの組織に経費はこれまで一律で配分されてきたわけではないとし、「DFGは経済的な支援を一定の方法で行うことがとても重要だと考えている。博士課程の研究者たちが与えられたテーマを越えて専門知識を身に着けていくための手段になる経費は、それぞれの環境に関係なしに、引き続き利用できることが必要である」と述べる。

DFG総長のシュトロシュナイダー博士は、最初の報告の中で、与えられた研究テーマを越えた専門知識を身に着けることを、現在の世界の政治情勢、研究とその自由を脅かしている状況を考慮して、研究と若手研究者のサポートの役割についてのコメントに結び付けている。「特にRTGは、この点において特別な役割を持つ。RTGは、人を、包括的な知識を持った、自分の専門分野以外からの貴重な意見にも重きを置き、既存の論理に疑問を持ち、科学が複数の研究領域によって成り立っているということに気付ける研究者に育てなければならない。」とDFG総長は述べる。

DFG : [http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungn/2017/pressemitteilung\\_nr\\_14/index.html](http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungn/2017/pressemitteilung_nr_14/index.html)

(15 May. 2017)

## 大学の国際化のさらなる拡大 : HRK - EXPERTISE 国際化会議

ドイツの大学の国際化に関する責任者とはいったい誰なのか。大学のプログラム、研究、大学生活という観点でどのようにして国際化の認識をドイツの大学に広めていけばよいのか。HRK 専門国際化プログラムはまさにこの問題に取り組んでいる。本日開始された会議で、全ての大学職員が国際化への責任を積極的に担うことを保証する道を探った。120もの大学の代表者たちがベルリンに集い、このトピックに関して意見交換や情報交換を行った。

会議の冒頭、HRK 会長はこの国際化のゴールを「現在の政治や社会的な要望を満たし、それでいて国家主義的な傾向には強く反発できること」であると位置づけた。HRKは大学がこれからもすべての局面において国際化を制度的に推し進めていくことを引き続き奨励していくとHRK 会長は述べる。「我々には国際化や多文化主義に対して敏感に反応し、意欲をもって国際化と多文化主義を推し進めていくのに十分な能力を持つ大学職員が必要である。」とHRK 会長は言う。

各大学のそれぞれの、そして全ての職員が国際化に対して意欲を持つことは、大学の国際化を進めていく上での重要な鍵となる。欧州学術協力協会(ACA)会長でありオランダ大学協会の前会長でもあるノーダ博士はこの点について基調講演の中で強調して述べている。職員が個々に国際化への意識を持つことで、結果的に多くの人々が国際化に関わり、大学の国際化のゴールを明確にし、その結果として戦略的に大学の国際化を推し進めることになる」とACA 会長は述べる。

本日のHRK 会議の一部として、午後から4つのフォーラムが開かれる。そのフォーラムでは参加者たちがこれからの大学の組織的な国際化について新たな視点から討論をし、国際化の新たな可能性について討論する予定である。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/broadening-the-base-of-internationalisation-of-universities-launch-conference-of-hrk-expertis/>

(22 May. 2017)





## その他のニュース

### ドイツと日本がバッテリー研究における共同プロジェクトの礎石を置く

連邦教育研究省 (BMBF) ミュラー政務次官と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の宮本副理事長はバッテリー研究分野での日独共同研究に関する共同声明に調印した。

バッテリーは日常生活のさまざまな場で活用され、特に E-モビリティなどの未来のテクノロジーにとってとりわけ重要である。性能の良いバッテリーなくしては、娯楽のための電化製品、電気工具、フォークリフト、医療技術、E-モビリティは成り立たないものである。それゆえ、ドイツにおけるバッテリー研究はとりわけ重要な意義を持つ。

特に日本はバッテリー研究においては重要なパートナーである。というのは、日本におけるバッテリー研究は、娯楽のための電化製品への活用に促され、90 年代にはすでに築かれ、この領域では世界を先導しているからである。それゆえ、日独共同研究は日独双方の研究機関にとって利益になる。

ミュラー政務次官はこの日本滞在中に、共同プロジェクトのパートナーである京都大学を訪問した。両国のプロジェクトを紹介する以外にも、バッテリー技術の将来性に関して活発な議論が行われた。両国の共同プロジェクトでは、パートナーであるドイツ側からのギーセン大学、フラウンホーファー化学技術研究所 (ICT) と日本側からの京都大学は、イオン交換膜を備えた亜鉛と酸素で発電する充電式バッテリーというテーマで討論した。この充電式バッテリーは、「ポストリチウムバッテリー技術」、及び、「低価格でエネルギー貯蔵ができるもの」として期待されている。

9 月には大阪で開かれる学術ワークショップにおいて、新たに二つのプロジェクトがスタートする。BMBF は、ドイツのバッテリー研究を 2008 年以降、4 億ユーロの助成を行い、新たに整備してきた。そのおかげで今日ではドイツは再び、特に、バッテリー材料及びバッテリーセルシステム、また、バッテリーマネジメントシステム及び製造プロセスのためのパワーエレクトロニクスに関する基礎研究では、世界のトップレベルに立っている。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/deutschland-und-japan-legen-den-grundstein-fuer-gemeinsame-projekte-in-der-4245.html>

(26 May. 2017)

### 専門大学で教授志望者不足

専門大学において、多くの学部や専攻分野での教授不足が深刻な問題となっている。特に深刻な教授不足に悩まされているのは工学部である。工学部では、教授職の第 1 次募集に対して、選考プロセスの半分が人材不足やその他の理由で要件を満たすことができないまま終了した。このデータは、連邦教育研究省 (BMBF) の助成によるドイツ高等教育・科学論センター (DZHW) が 5 月 30 日に発表した研究「専門大学教授の志望者状況」によって明らかになった。工学部以外でも法学や経済学、社会科学そして医療技術・マネジメント分野で第 1 次募集後、40%もしくはそれ以上で教授を採用するための選考プロセスにおいて要件を満たせていないことが明らかとなった。

この研究によると、教授採用方法は州ごとに異なっている。特にバーデン・ヴュッテンベルク州において状況は深刻である。そこでは、第 1 次募集に対する手続きにおいて 48%が不十分であった。ドイツ全体では、都市部よりも地方がより深刻な問題を抱えている。

志望者不足であることは研究の中で指摘されているが、教授を採用するための選考プロセスの 49%において、通常であれば作成される 3 名の候補者リストが提出できないという点からも明らかである。全志望者の 29%は州大学法に従い公的手続き上の理由から、そのうちの 47%は大学外の実務経験不足で除外される。

DZHW は、今回の研究のために行政専門大学を除くすべての専門大学に協力を依頼した。そのうち 41 大学が、2013 年 7 月から 2015 年 6 月までに公募されていた 773 の教授職に対する採用手続きに関するデータを提供した。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/bewerbermangel-fuer-professuren-an-fachhochschulen-4256.html>

(30 May. 2017)

### 新たなフンボルト教授を選定

法学者、量子光学者、ウイルス学者、コンピューター科学者、そして細胞生物学者がドイツで最も権威のある国際的な研究に対する賞に輝いた。フンボルト教授職は最大 500 万ユーロまで支援がされ、現在まで外国の機関で働いている著名な研究者の中から、すべての学問分野を対象として選ばれる。受賞者には、ドイツ国内で長期

## その他のニュース

間を基本として最先端の研究を行うことが期待されている。

今回新たに選ばれたフンボルト教授候補者たちはそれぞれスイス、オーストリア、オランダ、そしてフランスで現在研究している。賞金はドイツでの最初の5年間の研究資金として使用される。この賞はフンボルト財団(AvH)によって運営され、連邦教育研究省(BMBF)によって助成されている。

今回のフンボルト教授候補者たちはデンマーク、フランス、英国、イスラエル、オランダ、オーストリア、スイス、トルコ、そして米国から推薦されていた15人の研究者の中から選ばれた。今回選ばれた研究者たちは、これから彼らを推薦したドイツの大学と交渉を開始する予定である。もしも彼らが今回のAvHの賞を受賞すれば、賞金は2018年の5月に贈られる予定である。

・Anne van Aaken (48) : スイス・ガレン大学(法学)所属。ハンブルク大学が推薦。

・Wil van der Aalst (51) : オランダ・アイントフオーヘン工科大学(コンピューターサイエンス)所属。アーヘン大学が推薦。

・Arno Rauschenbeutel (46) : オーストリア・ウィーン工科大学(量子光学)所属。ベルリン・フンボルト大学が推薦。

・Guus F. Rimmelzwaan (57) : エラスムス・ロッテルダム大学(ウィルス学)所属。ハノーファー獣医大学が推薦。

・Michael H. Sieweke (54) : フランス国立科学研究中心(細胞生物学)所属。ドレスデン工科大学が推薦。

フンボルト教授職は、ドイツの大学が国際的にトップクラスの研究者たちに、研究のための優位性のある条件を提示でき、それと同時に世界の研究市場の中で、国際的な知名度を際立たせることができる。この賞はフンボルト教授としてドイツにて長期間の研究を行うことが受賞の前提条件となっている。現在までに、10人の女性研究者を含む59人の研究者が、フンボルト教授職を得てドイツに異動してきた。

AvH: <https://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2017-12.html>

(30 May, 2017)

## 多くの大学中退者は職業教育を受ける

学士課程学生の29%が大学を中退している。中退者の割合は総合大学で32%、専門大学で27%である。中退者の大多数は大学を中退後、別の教育を受けるかまたは職業に就いて成果を収めている。大学中退後半年以内に43%が職業訓練教育を受け始め、31%は就業している。これは連邦教育研究省(BMBF)が助成しているドイツ高等教育・科学論センター(DZHW)の研究調査結果であり、6月1日にベルリンで報告された。

DZHWの研究調査では、2014年度卒業生を基に大学中退者率を計算し、中退の主な理由と中退者の大学中退後の進路を調査した。「中退」現象をより包括的に解明するため、今日の研究調査では、2014年に大学を中退した学生のみでなく、学部や学科の運営管理部門、そして様々な相談機関もまた調査対象となった。

今回の調査によると、学士課程を中退した学生の中では、成績不振という理由が最も多く、その比率は全体の30%である。学業に対するやる気の欠如が二番目に多い理由として挙げられ、17%であった。

メルカトル財団が助成した研究調査によれば、ドイツの教育を受けた外国人学生(今までで唯一統計的に把握できる移民の学生グループ)の中途退学の割合は、43%と非常に高い。

移民の若者にとって、大学を無事卒業するための土台は、大学入学前の人生段階で築かれている。そのため、大学卒業に対する支援策は、大学での学業のみだけではなく、高等教育以前の学校から大学までの学習活動をも顧みねばならない。研究調査の結果によれば、移民の学生の多くが通う職業学校や専門高等学校では、大学での勉学の準備に十分対処できておらず、このことが移民の学生の大学中退率を高める要因となっている。

BMBFは、高等教育以前の学校での職業指導プログラムを拡大するための支援を行う一方で、大学卒業のため、また大学中退のケースでは職業教育への移行をスムーズにするための枠組み条件を改善すべく多くの支援を行っている。その結果、高等教育協定2020による資金の10%が、2016年以降、大学中退を防ぐための支援として大学に提供されている。また、連邦・州政府のプログラムである教育の質向上プログラムは、大学での学習環境及び大学教育の質を改善する。大学中退について、より経験に基づいた認識を得るため、BMBFが支援する20の研究プログラムが6月にスタートする。その研究結果については、大学中退回避策及び高等教育政策をより効果的なものにするために役立てられる。



## その他のニュース

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/studienabbrecher-beginnen-haeufig-eine-berufsausbildung-4283.html>  
(01 Jun. 2017)

### 国境を越えた教育：持続的な成功のためのデータ

国境を越えた高等教育は、大学の国際化にとって非常に重要な役割を果たす。ドイツの大学とアジア、中東及び南米の大学との国境を越えた大学間連携の数は増加しており、高まりつつある高等教育に対するニーズを満たす役割も持つ。しかしながら、これまでは様々な国境を越えた高等教育（TNB）プロジェクトに関するデータを収集し比較するための共通の指標がなかった。そのため、ドイツ学術交流会（DAAD）はブリティッシュ・カウンスルと協働でガイドラインを一年かけて作成した。そのガイドラインをもとに、TNB プロジェクトに関する共通のデータベースを持つことが可能になる。このガイドラインはロンドンで開かれる会議、「ゴーイング・グローバル」で発表された。このガイドラインは、高等教育や国境を越えた高等教育分野に携わる、全部で 35 か国 100 人以上の関係者の経験に基づいて作成された。

#### 背景

外国におけるドイツの高等教育プロジェクトは、大学の国際化という枠組みの中で重要な要素となっている。これらの外国における高等教育プロジェクトにおいて、ドイツの大学は学術的に重い責任を担い、プロジェクトの中には相手国の協定校と共同で学科を提供する個々のものから、海外分校の設置や国境を越えての大学設立など、規模の大きいものまである。

多くの国際志向の学生たちは、外国へは行かずに外国の一流大学が提供する質の高い教育と、大学に通うことで得られる名声を手に入れたいと思っている。国際教育市場においてもこの分野は成長が見込まれ、自国で外国の質の高い高等教育を受けたいというニーズは急速に拡大している。特別に用意された助成プログラムにより、DAAD は特定国においてスタディプログラムを起業的に試みるドイツの大学を支援する。この支援には学科を新たに創設するためのスタートアップの経費だけでなく、国際教育市場、及び運営管理に関する情報提供や助言も含まれている。

#### DAAD:

<https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/>

55001-transnationale-bildung-daten-fuer-nachhaltigen-erfolg/  
(01 Jun. 2017)

### 子供たちを早期に個々に支援

ドイツにおけるほぼ 3 人に 1 人の小学生が、小学校で習う読み書きや計算の習得に関して問題があることがわかり、個々の成長やこれからの社会に対して不安を残す結果となった。上記の子供たちのうち、約半数が抱える学習困難度合いは非常に高いものであり、その子供たちは学習障害（読み書きや計算に関しての学習障害）と診断されている。今回の調査結果は、連邦教育研究省（BMBF）の支援を受けて、ドイツ国際教育研究所、ヒルデスハイム大学、フランクフルト大学、ならびにオルデンブルク大学によって実施されたものである。

今回のプロジェクトにより、学習障害に関する学術的根拠のある診断ツールや支援ツールが開発され、初めてオンラインプラットフォーム上でもこれらのツールを自由に利用できるようになる。今後、学校やスクールカウンセラー、学習療法士、地方自治体の青少年局、そして子供たちの親がこれらのツールについて情報を集め、利用することが可能となる。今後の目標は、根拠に基づいた情報や診断ツールでもって、できるだけ多くの学習障害を抱える子供や青少年を救うことである。

また第二言語としてドイツ語を習得する過程で、読み書きに問題がある子供たちをサポートするための支援策が計画されている。研究チームは、学校による支援と今までおろそかにされてきた子供たちにかかる心理的負荷、とりわけ学習障害の生徒たちが抱える不安を改善することが特に重要であると考えている。というのも、算数や朗読を恐れている子供は、学習に対しての自信がさらになくなり、学習のモチベーションをますます失ってしまうからである。

あらゆる面で研究チームは現場である学校の代表者たちと密接に共同作業するため、すべての診断ツール及び支援ツールが正しく利用されることになる。今後は、子供の学習障害リスクを素早く、そして確実に確かめられるよう、教師に対してアンケートを作成する予定である。

遊びながら読み書きや計算の習得を手助けすると評価されている、いわゆる「シリアスゲーム」と呼ばれるコンピューターゲームが、学習支援においてますます重要になりつつある。このゲームで遊ぶ際、コンピューターが個々の学習状況に適応し、学習成果を素早く反映させ



## その他のニュース

ることで子供たちにより一層やる気を持たせることができる。

BMBF:

<https://www.bmbf.de/de/kinder-fruehzeitig-und-individuell-unterstuetzen-4289.html>

(06 Jun. 2017)

### ドイツ大学長会議（HRK）の大学情報サイトがリニューアル

ドイツ大学長会議（HRK）が提供する「大学進路羅針盤」（[www.hochschulkompass.de](http://www.hochschulkompass.de)）という大学情報を載せたサイトはかなり時代遅れとなったため、全面的にリニューアルされた。同サイトでは、それぞれの大学紹介や特徴が簡単にまとめられている。新しい提携パートナーである ARD-alpha により作成された自己 PR 用の動画を、このサイト内で公開している大学もある。これまでに 70 の動画が作成されているが、今後もその数はさらに増える予定である。

このウェブサイトにより、特に大学進学希望者が、複雑なドイツの大学システムにおいても、わかりやすく容易に大学情報について手に入れることができるようになった。同様に、大学進学希望者が興味をもつ学科について、アクセスすることもより容易になった。「大学学科情報検索」という項目では、9 つの分野とその分野からなるほぼすべての 80 の学科に関して、その特色と進学に際して要求されるものについて記載されている。また、「大学進路羅針盤」のスマートフォン用アプリも改善された。

大学進路羅針盤は、現在のところ、最も幅広くドイツ全土の大学情報を網羅したポータルサイトである。サイト内では、大学が正式に認可した大学情報が掲載されている。大学情報に加えて、サイト内では、広報から国際まで、担当者の連絡先を含めた情報や、博士課程や国際交流に関する情報も掲載されている。それ以外にも、大学の学籍の空きを探したり、自分にどの学科が向いているのかチェックできるテストや、部屋探しの検索項目もある。

HRK:

<https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/hrk-hochschulkompass-erweitert-und-optimiert-4173/>

(19 Jun. 2017)

### シュタインマイヤー連邦大統領がベレビュー城でフンボルト財団と交流

フンボルト財団（AvH）の年次総会として 570 人以上の研究者たちが 6 月 29 日にドイツ連邦大統領の招待を受ける。

ブラジル、キューバ、英国、フランス、中国、カメルーン、スリランカ、米国など 80 か国以上から多くの研究者が今回の年次総会に参加する。現在、AvH の支援を受けてドイツ国内で研究を続けている 570 人以上の外国人研究者たちは、6 月 28 日から 29 日にかけてベルリンで開催される年次総会に彼らの家族も含めて招待される。フンボルト財団の年次総会ではフンボルト財団（AvH からの支援を受けたことのある研究者たち）の意見交換の場となっている。

今回の総会のハイライトとなるのは 6 月 29 日に行われるシュタインマイヤー連邦大統領との対面である。シュタインマイヤー連邦大統領のフンボルト財団との交流は、連邦大統領就任後としては今回が初めてとなる。レセプションの前には、連邦大統領が日独間交流の強化に貢献したとして、日本人哲学者である安部浩氏にフィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞を授与する。

年次総会は、6 月 28 日に AvH シュヴァルツ理事長とベルリン工科大学トムゼン学長の挨拶によって始まる。二人の挨拶に続いて、フンボルト財団賞受賞者でありノーベル物理学賞受賞者でもあるハロヘ氏によるドイツでの体験談をもとに発表が行われる。ドイツと相手国との学術的、また文化的な交流を促進するためのフンボルト同窓会賞受賞者の発表もオープニングセレモニーのセッションにて行われる予定である。

研究者たちは年次総会が開催される二日間に、例えば互いの研究プロジェクト、ドイツあるいは互いの国での生活や研究活動について意見交換をすることが可能である。

AvH: <https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2017-13.html>

(21 Jun. 2017)

### 発展途上国の女性たちのキャリア形成方法— DAAD による国際会議がボンで開催—

ドイツ学術交流会（DAAD）による国際会議、「発展途上国における女性のリーダーシップと高等教育マネジメント」が、6 月 28 日から 29 日にかけて、ボンで開催





## その他のニュース

され、招待を受けた 35 カ国 120 名の女性の大学運営管理者とジェンダー研究の専門家たちが参加する。彼女らは、発展途上国において学術機関の管理職に就く女性の割合を上昇させる方法について議論する予定である。

参加者たちは、女性の地位向上のための支援方法を明確にするため、発展途上国における高等教育機関と研究機関の管理職に就いている女性の現状、キャリア形成をしていく上での障害、また、異なる文化背景であっても女性たちが世界共通で似たような問題に直面している可能性についての議論を予定している。

基調講演は、ライプツィヒ大学シュッキング学長とウガンダ・ムニ大学ドウランツォア副学長が行う。彼女らは男女平等社会への課題として、ドイツとウガンダが抱える相違点と共通点について講演を行う予定である。

DAAD:

<https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/55478-wie-finden-frauen-in-entwicklungslaendern-ihren-weg-in-fuehrungspositionen-von-hochschule-und-forschung-internationale-daad-konferenz-in-bonn/>

(27 Jun. 2017)

### 開放と交流—国際協力を通して

国際的な協力関係の樹立と世界規模でのネットワークの構築は、ドイツの学術拠点としての地位をより強固なものにする。この見解は、連邦教育研究省 (BMBF) の管轄下で作成され、連邦内閣により、6 月 28 日付で採択された「教育と学術研究の国際協力に関する報告書 2014 年 - 2016 年」において報告されている。BMBF は 2015 年度に、国際協力のために単独で 80 億ユーロを計上していた。

この報告書は、ドイツにとって国際協力がいかに重要かを示している。2014 年には、8 万 5 千人以上の外国人研究者がドイツの高等教育機関及び研究機関で研究活動を行った。それと同様にして、ますます多くのドイツ人研究者達もまた、外国で貴重な経験を積むようになりつつある。2014 年には、約 4 万 3 千人のドイツ人研究者が外国で研究活動を行った。

連邦政府が世界規模の協力関係によって研究の卓越性を強化するための重要な手段として、大規模な研究インフラの建設と運用、並びに基盤研究のための国際的な大

型装置への関わりが挙げられる。職業訓練の分野でもドイツは、現在ヨーロッパ内外の 17 カ国から、職業訓練の教育システムの構築と強化について助言を求められるパートナーである。

この報告書の重点は、特にヨーロッパにおける協力関係に置かれている。というのも教育と研究はヨーロッパの結束にとって不可欠であるからだ。ヨーロッパが共同体であるという観点を実際に活かしているのは政策領域においてであり、この領域の中でヨーロッパの結束とそれによる利点を見出している。

ドイツは、国境を越えたヨーロッパの協力関係を先導する立役者の一人である。EU 加盟国が、都市化や人口統計学的開発、アルツハイマー病やその他の神経変性疾患などのテーマについて共同研究する際、10 件あればそのうち 9 件の取り組みにおいて、ドイツ人研究者が関わっている。また、ドイツは (欧州連合運営条約第 185 条の下で) いくつかのヨーロッパの長期的な助成プログラムにも参加している。一例として挙げられるのは、地中海地域における水と食料供給をより効率的かつ安価で、持続可能にすることを目指した、研究と技術革新への参画である。

高等教育機関の学生、生徒、職業訓練生、教員を対象とした「エラスムス・プラス」プログラムを利用して、2014 年、2015 年のアカデミックイヤーにかけて 3 万 8 千人以上が外国滞在を経験した。それに加えて、ドイツ人研究者は、「ホライズン 2020」という研究と技術革新のための EU フレームワーク・プログラムの下で、123 カ国から成るパートナーと共に研究活動に従事している。

近年の BMBF による教育、学術、研究に対する国際的な活動は成果を挙げている。ヨーロッパや世界中の相手国と協力することで、ドイツは国際的な競争力をさらに強化させてきた。ドイツは、国際交流の分野において、世界規模での課題にこれからも取り組んでいこう。

BMBF:

<https://www.bmbf.de/de/offenheit-und-austausch-durch-internationale-kooperation-4411.html>

(28 Jun. 2017)

## イベント活動報告

### フンボルト財団主催ネットワークミーティングに参加

日程：2017年4月5日（水）

場所：ドレスデン工科大学（TU Dresden）

参加者：出口副センター長

フンボルト財団（AvH）主催による、同財団の奨学生のためのネットワークミーティングがドレスデン工科大学にて開催された。AvHは、本会の対応機関のひとつであり、本会と同様に研究者の海外派遣を支援している機関である。このネットワークミーティングは、同財団から支援を受けて全世界で活躍する研究者のネットワーク構築のためのイベントとして毎年開催されているものであり、今回のイベントには50か国からの約250人が集まった。初日の4月5日には、ドレスデン工科大学の研究・国際担当副学長による挨拶とドレスデン工科大学の紹介の後、AvH事務局長から同財団の概要と活動紹介が行われ、引き続いてドレスデン工科大学 Jochen Guck 教授から “What Can Physics Contribute to Biology” と題した講演が行われた。講演後は、各奨学生の出身地域ごとのグループで部屋に分かれ、情報交換や、奨学金制度に関する質疑応答等が活発に行われた。ドイツ人グループにおいては、今後海外へ派遣される奨学生が、帰国した奨学生からアドバイスを受けるよい機会にもなっていた。



### サマープログラムオリエンテーションを開催

日程：2017年5月5日（金）

場所：グスタフ・シュトレゼマン・インスティテュート（ボン）

参加者：小平センター長、出口副センター長、Schulze 職員、Albers 職員、切畑国際協力員、半田国際協力員

JSPS サマープログラム 2017 の参加者を対象とした事前オリエンテーションを開催し、6月に渡日を控えた11名が今回参加した。JSPS サマープログラムは、欧米主要国の博士号取得前後の研究者を、夏期2カ月間日本に招致し、日本の文化や研究システムに関するオリエンテーションと日本側受入研究者の下での研究機会を提供するものである。

小平センター長の挨拶により開会し、本プログラムの審査に協力いただいているドイツ学術交流会（DAAD）のアジア・太平洋地域担当 Osinski 氏より DAAD の事業紹介が行われた。その後、参加者全員により自己紹介をはさみ、切畑国際協力員によりサマープログラムの概要説明が行われた。出口副センター長により、JSPS 国際事業について紹介があった。その後の休憩中も、参加者たちは熱心に日本の夏や日本食についてなどの質問をボンセンタースタッフにしていた。休憩の後は、前年度のプログラム参加者であり、京都大学に研究滞在していた Wenz 氏（フライブルク大学）と九州大学に研究滞在していた Köppl 氏（ドルトムント工科大学）の2名から、実際に自分が体験した日本での経験談をもとに発表してもらい、参加者たちは研究滞する日本での生活を、より身近にイメージすることができたようであった。





## イベント活動報告

ディスカッションの時間には活発に意見交換が行われ、特に日常生活面について質問が集中した。最後にドイツ語圏日本学術振興会同窓会（JSPS Club）によって同窓会の紹介が行われた。

事前オリエンテーション終了後の夕食会ではボンセンタースタッフと参加者が一緒に食事をしたため、ここでも日本への質問は尽きないようであった。渡航前にドイツからの他の参加者と一堂に会せること、また多くの参加者が、日本滞在に対しての不安や疑問を解消する意味でも、事前オリエンテーションの開催には意義があり、これを機に日独研究者の交流が深まり、将来にわたって広がることが期待される。



## トリアー大学においてプロモーション活動を実施

日程：2017年5月10日（水）

場所：トリアー大学（Universität Trier）

参加者：Schulze 職員、切畑国際協力員



トリアー大学において、本会の外国人特別研究員事業をはじめとする国際交流事業の説明会を開催した。当日はトリアー大学にて日本語を専門的に研究している学部生に加え、国際交流部で働く事務職員の方々や日本語学の教授も参加した。当日は平日でほかの授業との兼ね合いもあり、全体で10人弱の参加であった。

Schulze 職員によるプレゼンテーションのあとの質疑応答では、具体的な申請方法や受入研究者の探し方について、実際に業務を担当している事務職員から質問が多数出されたため、細かい内容にまで及んで回答した。また、学生からも日本留学に関する質問が出るなど、意欲の高さがうかがえた。トリアー大学は上智大学や早稲田大学などと協定を結び交換留学を行っており、これからも日本との交流に力を入れていくことが日本語学の教授により説明された。



## イベント活動報告

本イベントをきっかけに、特に事務職員の方々との交流は深まった。今後も学生に対して本会事業への関心を含め日本留学自体に関心をもってもらい、フェローシップ等への応募者の増加を期待したい。

### 第 22 回日独学術シンポジウム「変化する世界における女性のヘルスケアの新たな挑戦」をウルム大学で開催

日時：2017年5月19日（金）、5月20日（土）

場所：ウルム大学（Universität Ulm）

参加者：小平センター長、出口副センター長、Schulze 職員、切畑国際協力員、半田国際協力員

JSPS ボン研究連絡センターは、2017年5月19日及び20日の2日間、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会との共催で、第22回日独学術シンポジウム「変化する世界における女性のヘルスケアの新たな挑戦」を開催した。当日は、JSPS 事業経験者を中心として約90人の参加者が来場した。

1日目には、同窓会会長である Prof. Dr. Heinrich Menkhau さんや、在ミュンヘン日本国総領事館の柳（やなぎ）総領事をはじめとする、日独両国の代表者からの挨拶に引き続き、2つのセッションを実施した。これらのセッションでは、女性のヘルスケアに関する歴史的背景として、日本人女性として初めて西洋医学を学んだ産科医である楠本（くすもと）イネについての紹介があり、また、日独両国における生殖医学の現状についての報告があった。2日目にも、2つのセッションを実施した。これらのセッションでは、日独両国における、乳がんや子宮頸がんの予防に関する研究報告や、生殖医学における倫理的課題についての報告と議論がなされた。

来場者数は例年と比してやや少なかったものの、いずれのセッションの後にも、活発な質疑応答があり、コーヒープレークにおいても盛んな意見交換が行われた。セッション終了後には、本センターの小平センター長より、シンポジウムが盛況のうちに終了したことへの謝辞とともに、今後の日独学術交流のさらなる発展への期待が述べられた。





## イベント活動報告

### 海外特別研究員オリエンテーションおよびキャリアフォーラムを開催

日程：2017年6月9日（金）

場所：グスタフ・シュトレゼマン・インスティテュート（ボン）

参加者：小平センター長、出口副センター長、Johnen 職員、切畑国際協力員、半田国際協力員

平成 29 年度採用海外特別研究員（ドイツ派遣者）を対象にしたオリエンテーションおよびキャリアフォーラムを開催した。

本イベントは、在独日本人研究者のネットワーク形成支援を目的として昨年度初めて実施したものであり、参加者から貴重な機会になったと好評だったため今年度も継続して実施したものである。前回開催した時期にはまだ渡独していなかった 28 年度採用の海外特別研究員も含めて、今年度は 11 名が参加した。

まず始めに小平センター長による挨拶があり、その後、参加者全員による自己紹介および研究概要の紹介を行った。その後、デュッセルドルフ大学の前みち子教授より大学制度、研究機関の概要も含めたドイツでの研究生生活に関する講演が行われた。休憩中も参加者同士がドイツの生活について話し合うなど意見交換が行われていた。続いて、マックスプランク心肺研究所の中山雅敬グループリーダーにより、キャリア形成についてご自身の経験に基づいた講演が行われた。専攻分野が重なる参加者たちも多く、熱心に講演を聞いていた。その後、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課の宮地俊一課長補佐から、卓越研究員事業など若手研究者に対する文部科学省の支援についての説明が行われた。講演後には、今後のキャリア形成を見据えたドイツでの研究生生活について、参加者たちが 2 グループに分かれてディスカッションを行い、日常生活面や研究環境について意見交換が行われた。その後、出口副センター長による JSPS 国際事業や各日本人研究者ネットワークの説明があった。その後、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（JSPS Club）の Fleck 教授（ジューゲン大学）から、日独学術交流支援の取組みについて紹介があった。

オリエンテーション後の夕食会では参加者全員と一緒に食事をし、ここでもドイツでの生活や日本とドイツの研究環境の違いについて活発に意見交換が行われた。講演者の先生方も多くの質問を受けていた。

海外特別研究員は渡独時期も様々であり、専攻分野も異なり、所属研究機関もドイツの各地にあるため、専攻分野を超えて日本人同士が知り合うという機会はなかなか無い。それぞれ手探りで研究生生活をスタートさせなければならなかったが、今回のようなオリエンテーションを開催することで同じ立場の日本人研究者と知り合い、今後のキャリア構築に関する情報交換の機会を持つことで、ドイツでの研究滞在を円滑かつ効果的に進められることが期待される。





## センター長雑感

年度代わりと共に近藤・西村組が帰国して、新たな国際協力員、半田・切畑組が着任、それにドイツ人スタッフのアルバースさんが5月末から産休に入って、代わりにヨーネンさんが加わった。早速にサマープログラムで日本に行くフェロー達へのオリエンテーションや、学振の海外特別研究員としてドイツに来た日本人若手研究者へのオリエンテーションを行った。これらはいずれもボン・センターの近く、ドイツ連邦教育研究省わきに在るヨーロッパ・セミナーハウスで午後から夕方にかけて開催し、前年度の経験者も2名ほど招いての、親密な情報交換・交流の場となっている。前者にはドイツ学術交流会のプログラム担当者やドイツ語圏同窓会役員各1名に、また後者には在独の日本人シニア研究者2名や文科省・人材政策課からの1名にも加わって頂いて、将来のキャリア選択肢についても情報提供・意見交換を行った。

学振としては、海外特別研究員事業では自国の若手研究者を国として育成する観点からの支援であり、サマープログラムではドイツ人の若手研究者を日本に招いて、研究交流を促進するための支援であって、学振本部の担当課が異なるほか、フェローシップの経済支援内容も、自ずと異なっている。

学振の海外特別研究員に相当して長期にドイツ人若手研究者を外国に派遣するための事業はアレキサンダー・フォン・フンボルト財団が担っている。その中で、日本行きを希望する申請者には日本学術振興会の外国人ポスドク・フェローシップ枠を当てているが、「自国人派遣」か「外国人招致」かで、微妙な違いが生じる。自国人派遣では、行先地域によって手当を調整することもあるが、外国人招致では行先が日本なので標準化され、出身国には配慮されない。上記のように、フンボルト財団のドイツ人「外国派遣」事業のうち日本行きには学振の「外国人招致」枠を適用すると、家族構成などに依っては、時として差が生じてしまう。

このような状況は相手国や相手機関との協定によって様々であろうと思われるが、地域によって生活水準や社会保障制度などに差があると、応募する優れた若い研究者としては条件の良いプログラムを提供する行き先を選ぶ傾向もあり、多様化への適切な対応が求められる。若い時の留学や在外研究滞在経験の印象は、多くの場合、一生ついて回り、その後の世代を超えての国際連携にも影響を及ぼすことが少なくない。ヨーロッパ連合下のドイツを始めとするヨーロッパ諸国では、多様化への対応策が様々なレベル・要素で取り入れられつつあるが、わが国も国際化、グローバル化の波の中で、「多様化への対応」も求められていると言えよう。

(こだいら・けいいち 2017年7月7日)

## 今後のイベント等

9月19日(火)	日本人研究者ネットワーク(JR-Net)連絡会議、JSPS Abend(ボン)
11月10日(金)~11日(土)	ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会主催 会員による会員の招待、ジュニアフォーラム(シュツットガルト)
11月23日(木)	JANET-FORUM 2017(フライブルク)
11月24日(金)~25日(土)	JANET アルザスワークショップ(フランス・キンツハイム)
11月30日(木)~12月1日(金)	日独学術コロキウム(ベルリン)





## ドイツの大学紹介：トリアー大学

トリアー大学は、ドイツ西部、世界遺産の遺跡や教会をもつトリアーに位置する大学である。1473年に設立されるも、ナポレオン統治時代の18世紀には一度閉校を経験し、その後、1970年には再び、大学としての機能を取り戻した。

2017年7月時点での学生数は13,331人であり、そのうちの11%が海外からの留学生である。国際交流に力を入れており、近隣に位置するフランス、ベルギー、ルクセンブルクの大学と多くの協定を結んでいる。

日本の文化や文学を専門的に研究する日本語学科に在籍する学生は、1~2学期程度で日本の大学に留学する機会を与えられている。日本の協定校は全部で14大学であり、大阪学院大学や上智大学など、90年代から続く国際交流が行われている。(※)

※ いずれも同大ホームページ (<https://www.uni-trier.de/index.php?id=16186&L=2>) で公表されている数値から引用。



## 国際協力員コラム

環境大国ドイツ。ドイツでペットボトル飲料を購入すると、飲み物自体の料金とは別にペットボトル代として25セント程度を余分に払わなければなりません。その後、スーパー等へもっていき、左図のような回収マシンにペットボトルを入れるとラベルにあるバーコードを読み取り、先に支払ったペットボトル代を返金してくれます。子供が親から頼まれたリサイクルを手伝い、換金したお金でお菓子を買ってもらっている光景もしばしば。リサイクルに真剣に取り組むドイツならではの光景です。

しかしご注意ください。日本のようにペットボトルのラベルを外し、小さくつぶしてしまったものを回収マシンは読み取ってくれません。回収時には内部を洗い、そのままの状態ですべて持って行く必要があります。私がそれにより、数ユーロを無駄にしてしまったことは言うまでもありません。

(切畑国際協力員)



## 日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Wissenschaftszentrum

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Tel. +49 (0) 228-375050

Fax +49 (0) 228-957777

[www.jsps-bonn.de](http://www.jsps-bonn.de)